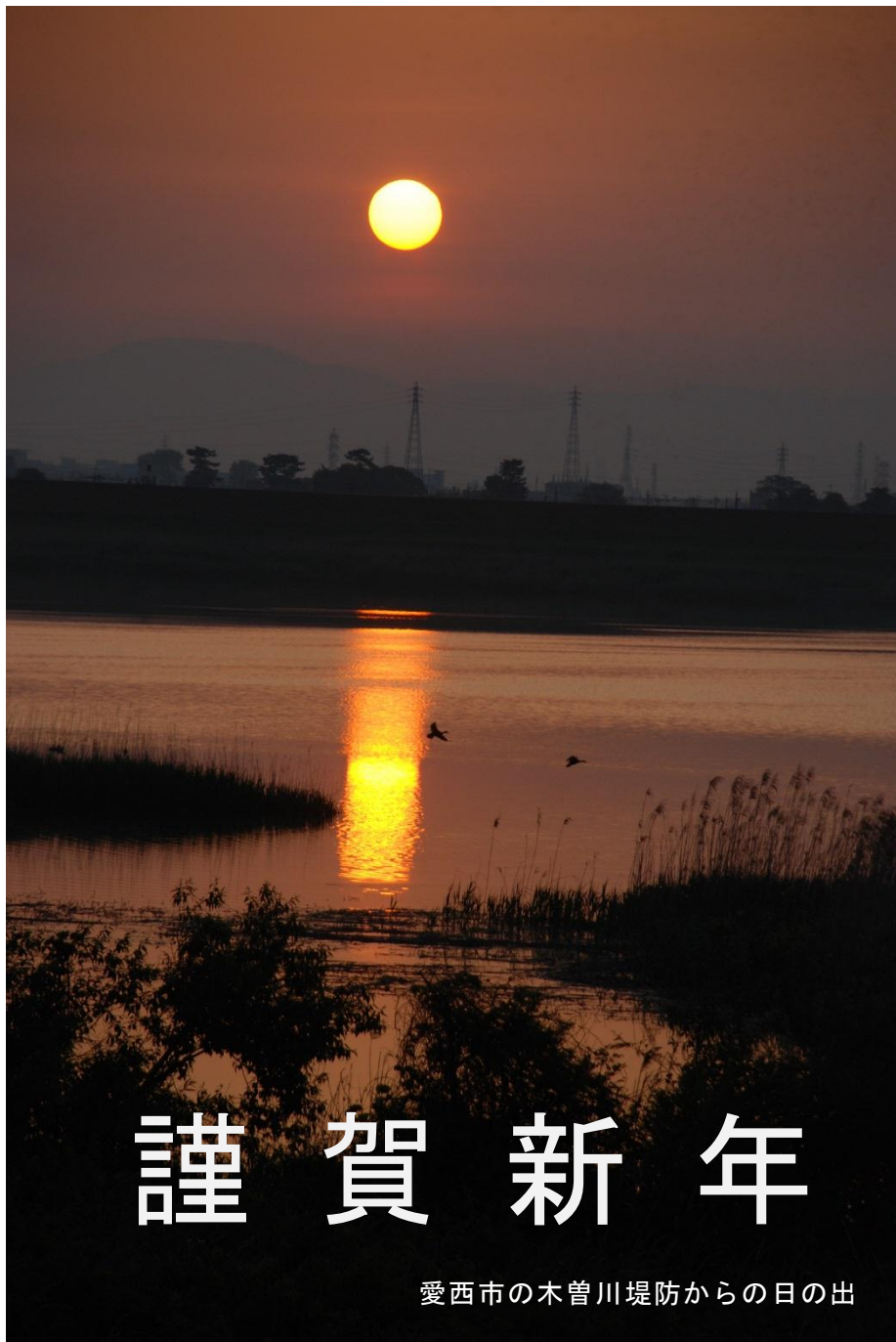


あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山
愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内
電話：0567-55-9993

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



謹賀新年

愛西市の木曾川堤防からの日の出

新年と言えば初詣です。みなさんは、どちらの神社に参拝されますか？

初詣とは、元々は「年籠り（としごもり）」と言ひ、家長が一年の家内安全などを祈願するために大晦日の夜から元日の朝にかけて町内にある氏神の社に籠る習慣でした。やがて年籠りは、大晦日の夜の「除夜詣」と元日の朝の「元日詣」との2つに分かれ、元日詣が今日の初詣の原形となりました。また、江戸時代末期までの元日の社寺参拝としては、氏神に参詣したり、居住地から見て恵方にあたる社寺に参詣（恵方詣）したりする風習が行われていました。

現在のように著名な神社に初詣へ行くようになったのは、各地で鉄道網が整備された明治末期以降の風習で、当地の尾張五社巡りも名古屋鉄道が整備されてからの風習です。

さて、みなさんは『蘇民将来（そみんしょうらい）』をご存知ですか？ （2頁に続く）

『蘇民将来（そみんしょうらい）と牛頭天王（ごずてんのう）』



津島神社の茅ノ輪くぐり

むかし昔、北の山に牛頭天王（ごずてんのう）という神様がいました。心やさしい神様でしたが、頭に角が二本生えていたため、誰もが怖がり奥様がいませんでした。ある日、青い鳥が空から降りてきて「南の海にとても綺麗な王女様がいます。独身です。」と教えてくれました。

天王は大喜びで家来達と共に旅立ちました。しかし、南の海は遠く、夕暮れになってしまいました。一晩泊めてもらおうと金銀で飾られた大きな宮殿に行きました

が、その宮殿に住んでいたのは貪欲でやさしさの欠片もない巨旦将来（こたんしょうらい）という者で、「泊める場所はない。」と天王を追い出しました。

しばらく行くと、藁葺きの小さな家があり、そこには蘇民将来（そみんしょうらい）という者が住んでいました。「泊めて欲しい。」と頼む天王に、「泊まっていたとしても良いですが、家も小さく貧乏なので食事も十分に用意できません。」と答えました。しかし、天王と家来達が家に入ると、不思議なことに大きくなり、みんな泊まることができました。

次の日、元気になった天王は南の海へ行き王女に会いました。二人はすぐに仲良くなり幸せに暮らしました。八年の年月が経ち、その間に八人の子供達にも恵まれました。

北の国へ帰る時、天王は再び蘇民将来の家泊まりました。そして、朝立ち去る時「私は牛頭天王（スサノオノミコト）である。心やさしい蘇民将来よ、あなたには大変お世話になった。今晚、恐ろしいことが起きるが、あなたの家族は茅ノ輪を腰に付けて寝なさい。」と言いました。

その夜、恐ろしい疫病が街を襲い、巨旦将来を始めたくさんの方が死んでしまいました。しかし、茅ノ輪を付けた蘇民将来の家族だけは、難を逃れることができました。

このような蘇民将来の伝承は、津島神社や京都の八坂神社をはじめ、多くの神社（祭神に牛頭天王、スサノオノミコトを祀る神社）に伝わる縁起です。そして、この伝承に基づき、愛西市町方町の姥ヶ森神社では毎年正月4日に「茅ノ輪くぐり」神事が実施されています。津島神社（4日）をはじめ、多くの神社でも同様の神事が実施されており、茅ノ輪をくぐると一年無病息災で暮らせると言われています。



津島神社の蘇民将来護符

さらに、津島神社や京都の八坂神社をはじめ、多くの神社仏閣で「蘇民将来子孫也」という護符を販売しており、家の門などに、吊ったり、貼ったりしておくと無病息災で暮らせると言われています。特に、三重県の伊勢地方では、松下社という神社で年末に頒布される注連縄（しめなわ）飾り型の護符を玄関先に付ける風習があります。

1月31日はあいさいの日

1月31日、1月の1（いち）を英語のI（あい）と読んで、1・31（あいさい）。語呂合わせで「愛妻の日」です。「愛西の日」にもなります。

今年の1月31日は、愛西市観光協会主催で、愛西市文化会館を会場として、一日楽しめる特別催事「出逢い・ふれ逢い 第1回 あいさいフェスティバル」が計画されています。もちろん、入場無料です。大ホールでは、9：30から記念式典、10：00から愛妻カラオケ大会、11：30から清林館高等学校のチアリーディング、13：00から佐屋中学校のオーケストラ、13：30から海演隊の公演が予定されています。

愛妻カラオケ大会は、男女ペアによるデュエット曲に限って披露していただくそうです。もちろん、夫婦でなくても、将来愛妻家になるカップル、愛妻家にみえるカップルでも良いそうです。優秀者には表彰もあるそうです。

海演隊は、大須演芸場で活躍している若手、東海地区に演芸を広め隊という、愛西市観光大使である古池鱗林さんとその仲間による公演であり、楽しみな内容が予定されています。

また、会場内には、愛西市ふるさと応援寄付金コーナー、愛西市の歴史コーナー、あいさいさんグッズコーナー、物産販売コーナー、愛西市内にある高等学校（佐屋高校、佐織工業高校、佐織特別支援学校）の紹介コーナーができます。当日は、愛西市の日として、愛妻家はもちろん全市民で盛り上がりましょう。

横井也有の『鶉衣』と『行々子』

12月13日、佐織公民館で名古屋市博物館の山本祐子氏による歴史講演会『愛西市ゆかりの文化人・横井也有と『鶉衣』』がありました。山本氏によると也有の作品は明治時代の小説家・永井荷風に「也有のような美しい文を書きたい」と評価され、古典の高校教科書に『鶉衣』の一節が使われているほど文学の世界では著名な存在だそうです。講演の中で『行々子（ぎょうぎょうし）』という作品が紹介されました。どこかで聞いたような面白い文章です。なお、『行々子』とは鳴き声が「ギョギョシ、ギョギョシ」と聞こえるオオヨシキリという鳥の異名であり愛西市にもいます、また、狂歌を意味するそうです。郷土の偉人を再発見できた講演会でした。

◆老のすさみ自箴の詞

皺はよる ふすべは出きる 背はかがむ あたまははげる 毛は白ふなる

◆是は人目見ぐるしきことをしるべし

手はふるふ 足はよろつく 歯はぬける 耳は聞へず 目はうとふなる

◆是は人の数ならぬをしるべし

よどたらず 目汁をたらず 鼻たらず 取はづしては 小便ももる

◆是は人のむさがるをしるべし

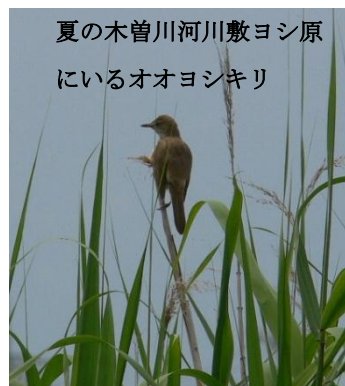
又しても おなじ咄に子風意聴 達者自慢に 若きざれごと

◆人のかたはらいたくききにくきものなり

くどふなる 気短になる 愚痴になる 思ひつくこと皆古ふなる

◆かかる身の上をわきまへず

聞きたがる 死にともながる さびしがる 出交りたがる 世話やきたがる



夏の木曾川河川敷ヨシ原
にいるオオヨシキリ

愛西市観光協会が関係するイベント

1月31日 出逢い・ふれ逢い 第1回 あいさいフェスティバル

1月の1（いち）を英語のI（あい）と読んで、1・31（あいさい）。語呂合わせで「愛妻の日」です。「愛西の日」にもなります。フェスティバルの内容は3頁参照。



コハクチョウ 飛来しています！

1月24日、木曾川観光船の最終運航日に愛西市木曾川にある葛木港に、冬の使者である2羽の仲良いコハクチョウが飛来していました。

木曾川観光船運行3年目で、期間中に初めての吉兆という風景で船頭さん達も喜んでいました。新年は何か良いことがあるかも？

V G 1月定例会の予定

日時：1月18日（日）9時～

集合場所：愛西市文化会館

内容：定例会

あいさいボランティアガイドの会 12月定例会 議事録

◆会議（12月21日（日）9～11時、於：愛西市文化会館、24名出席）

下記内容で協議しました。

①愛西市観光協会 加藤会長挨拶 と 新会員の紹介

②『街道を行く 原画展』事業結果報告

期間中の展示会への来場者は226人、ウォーキング大会への参加者は30人でした。来場者から、継続して中日新聞に掲載されている佐屋町周辺の街道風景の原画展示会と佐屋街道のウォーキング大会が春頃にあると良いと言われました。

③「あいさいフェスティバル」の事業紹介と協力体制について

フェスティバル内容は3頁参照。

④次年度の活動計画及び内容について

・ガイド能力を向上するために、他市町村にあるボランティアガイドの会との交流会を実施するバスツアーを考えています。みなさんから視察候補地を聞きました。

・2015年度は、愛西市観光協会です小学生向けの郷土史検定である「あいさいジュニア検定」を予定していますので、協力をお願いしました。

・2015年度は、観光客から需要がある佐屋宿周辺、勝幡城跡周辺、赤蓮保存田のガイドに注力します。そのため、分科会での会議を再開します。また、観光船でガイドする会員を増やすために、1・2月例会で観光船ガイドマニュアルの勉強会を開催します。